

連載

投信販売現場革命！

第4回

～“三方よし”の持続可能なビジネスを目指して～

長期分散投資の重要性①

今回から2回に分けて、長期分散投資の重要性について考えてみたいと思います。

まず、資産運用を始めた多くの人は「失敗したくない」⇔「損をしたくない」と考えますが、実際に損をする方は少なからずいらっしゃいます。では、なぜ損をしてしまうのでしょうか。その理由の一つは、損をしたタイミングで運用をやめてしまうからです。運用期間中に想定外の事象が起きたことで、元本割れしているにもかかわらず全て解約してしまうようなケースが代表例ですが、このような場合には長期投資の実践が有効な解決策となります。

資産運用の対象は、主に世界各国の株式や債券といったいわゆる成長が期待される資産です。例えば図表1の通り、先進国の株式に投資したパフォーマンスの推移は、ほぼ世界のGDP成長率の動きと一致していることがわかります。途中、マーケットの影響を受けて何度か大きく下がる場面もありますが、30年以上という長期で運用を続けると資産価格は再び回復し、結果として大きく成長しています。これは、投資によって得られる期待リターンが本質的には世界経済の成長を源泉としていることに他なりません。従って、世界経済の成長に伴い世界の成長資産に投資することは、おおむねその成長率に見合った投資成果が期待できるということを意味しています。

また図表2は、先進国株式に5年間及び14年間投資を続けた場合の年率リターン結果です。100年に一度と言われたリーマンショック直前に投資をした場合には、5年

間の運用では資産価格がマイナスとなっていますが、14年間では結果がプラスです。併せて、年率リターンの平均値は長期で運用するほど安定的な成果を残していることもわかります。

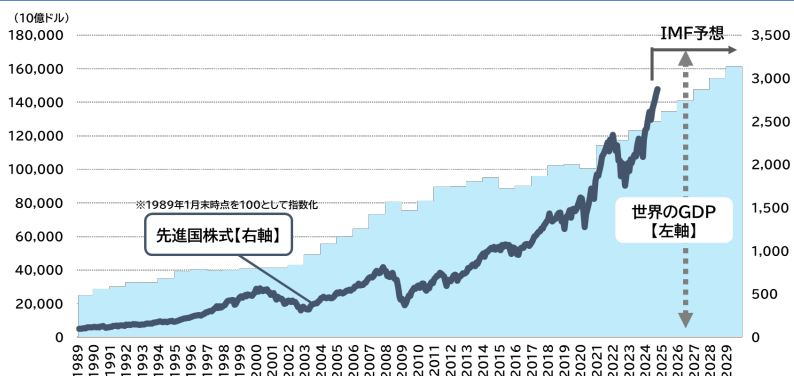
長期投資のもう一つのメリットは「複利効果」を生かせることです。言うまでもなく複利とは、運用で得た利益を再び投資することで利益が利益を生み資産が増えることですが、複利の効果は長期投資と非常に相性が良く、長期にわたるほど単利と複利の運用の差は大きくなります。

このように長期投資の実践は、損をしてしまうことに対しての一つの有効な解決策になることがご理解いただけたかと思います。ただそうは言っても「資産運用をしている時に株価が急に下がったらやっぱり怖いんだけど…」というお客さまも多いと思います。このような場合に備えて取るべき解決策はあるのでしょうか。このあたりについては、次回のコラムで詳しくお話ししたいと思います。

(執筆:りそなアセットマネジメント

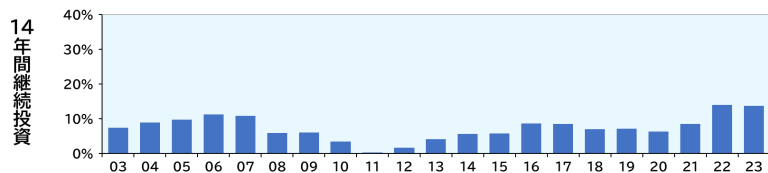
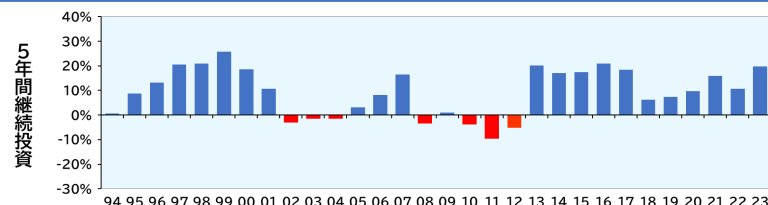
未来資産形成ラボ所長 南川 久)

図表1 世界のGDPと先進国株式の値動きの推移



※「先進国株式」は、MSCI-KOKUSAI指数(配当込み、円換算ベース)を使用。Bloombergのデータよりりそなアセットマネジメントが作成。
※世界のGDPはINTERNATIONAL MONETARY FUND (IMF):World Economic Outlook DataBaseのデータよりりそなアセットマネジメント作成。

図表2 長期投資による年率リターンの改善 (先進国株式)



※「先進国株式」は、MSCI-KOKUSAI指数(配当込み、円換算ベース)を使用。Bloombergのデータよりりそなアセットマネジメントが作成。
※1990年から2023年までの各年の12月末時点までの5年間/14年間の年率平均リターンを示しています。